

平城遷都1300年祭 県民活動支援事業『天平茶論シンポジウム』

天平の茶とその時代

聖徳太子は、お茶を飲んだか？

平成22年 **8月21日** 〔土〕午後1時開始
奈良県新公会堂能楽ホール 奈良県奈良市春日野町101
定員／500人（無料先着順） 主催／フォーラム天平茶論 後援／社団法人平城遷都1300年記念事業協会
協賛／手向山八幡宮 関西印刷株式会社
応募受付／株式会社エヌ・アイ・プランニング（天平茶論事務局）
電話・0743・73・8877 ファックス・0743・73・7781（受付）午前9時～午後5時

お茶はいつから飲まれていた？シンポジウムで、起源を訪ねてみよう。

家庭で、茶の間で、休憩室で、食堂で、飲食店で何気なく飲んでいるお茶。お茶の習慣はそれこそ『日常茶飯事』となって日本人の生活に根を下ろしています。でもお茶を飲みだしたのはいつたい、いつごろからだったのでしょうか。通説では平安時代。でも、どうやら奈良時代にまでその起源をさかのぼれそうだと、という説が広がろうとしています。平城遷都1300年の今年、事始めの地・奈良で、研究者や専門家たちのロマンあふれる公開討論に耳を傾けてみませんか。



平城遷都
1300年祭

平城遷都1300年祭 県民活動支援事業『天平茶論シンポジウム』

天平の茶とその時代

聖徳太子は、お茶を飲んだか？

平城遷都1300年祭 県民活動支援事業

『天平茶論シンポジウム』

京都や堺の影に隠れがちですが、奈良は茶の湯のふるさと。茶の湯の草創期を支えた茶人・風流人が、奈良にあれこれ足跡を残しています。

そもそも、日本でお茶はいつから飲まれていたのでしょうか。

平安初期の歴史書「日本後紀」に、815年、

現在の大津市の梵釈寺（廃寺）で、

大僧都永忠が煎じた茶を、嵯峨天皇が飲んだという記録が

いまのところ、最古の文献のようです。ところがこれに先立ち、

平城宮跡から出土した木簡に「茶三斗五升」という

記載があります。裏面には「天平八年（736年）」の文字。

「茶」は「にがな」とされてきましたが、

当時の人にとってニガナとはいったい？

「茶」を「茶」の一種とすれば、日本でのお茶の歴史は、

奈良時代までさかのぼるのでは。

ひょっとしたら聖徳太子も飲んでいたかもしれない？

平城遷都1300年の今年、

事始めの地・奈良で、身近なお茶の歴史を見つめ直し、

ロマンあふれる公開討論に耳を傾けてみませんか。

■第1部——講演

◎万葉人の酒宴（30分）

伝承料理研究家——奥村彪生

◎茶の湯のふるさと奈良（30分）

帝塚山大学講師——神津朝夫

■第2部——シンポジウム

◎「聖徳太子はお茶を飲んだか？」

【基調報告】（30分）

天平文化と茶

帝塚山短期大学名誉教授——青山茂

【パネルディスカッション】（90分）

◇パネラー

小川流煎茶家元——小川後楽

暮らしのお茶研究家——谷本陽蔵

京都造形芸術大学講師——寺田孝重

◇コーディネーター

中国国際茶文化研究会名誉理事——成田重行

◇総合司会

カラーアーティスト・アナウンサー——桶村久美子



桶村 久美子



成田重行



寺田孝重



谷本陽蔵



小川後楽



青山茂



神津朝夫



奥村彪生

日時／平成22年8月21日[土]（午後1時～4時30分 受付開始正午～）

場所／奈良県新公会堂 能楽ホール（奈良市春日野町101）

テーマ／「天平の茶とその時代—聖徳太子は、お茶を飲んだか？」

定員／500名（無料） 主催／フォーラム天平茶論 協賛／手向山八幡宮 関西印刷株式会社
応募受付／株式会社エヌ・アイ・プランニング（天平茶論事務局）

TEL.0743-73-8877 FAX.0743-73-7781（受付時間）午前9時～午後5時

フォーラム天平茶論：茶の文化的広がりや歴史についての理解を深めようと、海老澤博司氏の提唱で1999年に設立。



写真提供：奈良文化財研究所